土浦で醤油づくりを始めた 國分勘兵衛宗山

土浦市

江戸時代の頃、伊勢国（現在の三重県）に國分勘兵衛宗山（四代目）という商人がいました。

宗山が江戸に出たある時、筑波山に参拝し、遠祖・平国香の供養のため土浦に滞在しました。そこで出されたお茶のおいしいことに驚き、「ここのお茶は、どうしてこんなにおいしいのか」と尋ねると、「ここは水がよいのですよ」と言われました。興味を持った宗山が詳しく聞いてみると、このあたりは良質の大豆や小麦の産地にも恵まれており、土浦藩主である土屋政直が醤油醸造を奨励していたことがわかりました。

宗山は「私の求めていたものはこれだ」と思い立つと住まいを移し、藩の助けを受けながら田宿町（現在の土浦市大手町）に創業、醸造所を造りました。



その後、江戸幕府の老中であった政直の後押しもあり、宗山の手掛けた醤油は土浦藩の御用達にも指定され、以降、子孫が代々大国屋勘兵衛を名乗り「キッコー大」の商号で醤油づくりを発展させました。商号の亀甲印は、土浦城の別名亀城からその形をとったとも言われています。

また、かつて醤油の流通を支えた舟運が発達していた土地の名残は、土浦駅西口にある霞ヶ浦の水運「川口河岸」碑などからもみることができます。



〈参考資料〉「日本橋で三百年」石田修大 著（国分株式会社発行）
広報つちうら／日本醸造協会誌 他

※掲載事項には諸説あります。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215（大代） http://www.ibaraki-isuzu.co.jp